

副教材：SOAS 作成自主教材 ① WORKBOOK I&II (文法、翻訳練習) ② KANJI WORKBOOK I & II (漢字 665 字) ③ 読解教材、④ 作文教材、⑤ 各課復習クイズ

1 週間(1 コマ 50 分、週 1 4 コマ)1 課で進み、23 週で全 3 巻を終える。出席率、宿題提出率、各課漢字クイズ、各課復習クイズ、各学期テストなどが平常点(20%)として加算され、学年末の最終試験(80%)とあわせて進級が決まる。総合的な日本語力を育成することを目的としている。

b) 加速初級日本語 Accelerated Elementary Japanese

日本語既習者、日本在住経験者、片親が日本人などの学生のため、本年度新たに開講した。ヨーロッパからの日本語学習経験者の増加や、英国内における高校での日本語教育の広まりを鑑み、受入態勢を改善した。これは、上記の初級日本語と平行しており、従来の内容を短時間でカバーしながら、少人数制で弱点を補い総合的な力を付けることを目指す。第 1 学年で入門者用と既習者用のコースを設けた試みは、日本語専攻大学としては、初めてであろう。プレースメント・テストの結果でどちらの初級日本語コースを履修するかを決定する。

c) 現代日本社会講読 Readings in Modern Japanese Society

主に新聞・雑誌記事を講読し、英訳する。

d) 中級実用日本語 Intermediate Practical Japanese

『インタビューで学ぶ日本語』、『ニュースで学ぶ日本語』、ビデオ『青春家族』『実践にほんごの作文』、衛星放送のニュース、テレビ番組等を使用。現代日本社会講読コースのテーマをもとに作文。

e) 近代思想史 Japanese Intellectual History

明治維新、大正デモクラシーなどをテーマに原文を講読、英訳。英文の文献も参考にする。

f) 上級実用日本語 Advanced Practical Japanese

『日本語で学ぶ日本』『講義を聴く技術』などのテープ、テレビ番組などで聴解をし、ディスカッションをする。また、教育、環境、人口問題などのテーマでスピーチを練習し、最終的には日本語 5,000 字の小論文を書き、口頭発表する。

5. 日本語学科以外の学生への日本語教育

他学部の学生や大学院生、ロンドン大学の他のカレッジ生のための選択科目として、基礎日本語 I(週 3 時間、『みんなの日本語 I』使用)、基礎日本語 II(週 3 時間、『みんなの日本語 II』)と大学院生用中級読解(週 3 時間、新聞など)のコースがあり、日本語教育担当教師が主に行っている。

6. 修士課程(1 年課程)

東アジア文学、日本語言語学、日本語応用言語学の分野で修士号が取得できる。英国唯一の日本語応用言語学修士課程は 96 年度に開設されたもので、日本語の「教授法と教育実習」の講座を含む。

7. Language Centre

日本語学科とは別の独立した部門で、社会人を対象に有料でアジア・アフリカの言語文化を教えている。日本語 Diploma コース、短期コース・個人教授など行っている。また、日本語教師養成講座も開講しており、この夏第 10 期生を送り出したところである。

8. 問題点と改善策

日本留学に関連して、いくつか問題点が生じている。まず、事務手続きが煩雑・申請時期が不都合・奨学金が削減されたなどがあげられる。しかし、日本語担当教師としての大きな課題は、SOAS のように 10 大学に学生を送り、また、同じ大学でも異なったレベルで 1 年間勉強して戻ってくる学生をどのように受け入れるかである。98 年 9 月の新年度にはじめて学生が戻ってきたのであるが、正直なところ日本語力の差には驚きであった。そこで、少しでも差を縮めるため、本年度の 1 年生には日本留学中に学んで来てほしい最低限の漢字及び文法項目を留学前に配布し、帰英時の 3 年生初頭に実力テストを課すると伝達した。どのような功を奏するか、来年の 9 月まで待たなければならない。

以上
1999 年 7 月